

全国・福井景気動向 平成27年4月～6月(対前年同期比:DI値)

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成27年 4月～6月実績

平成27年 7月～9月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 平成27年4～6月期実績及び7～9月期見通し
7. 調査時点 平成27年6月1日（月）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.6%	23	14.0%	95.8%
小売業	51	30.9%	51	31.1%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.7%	100.0%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

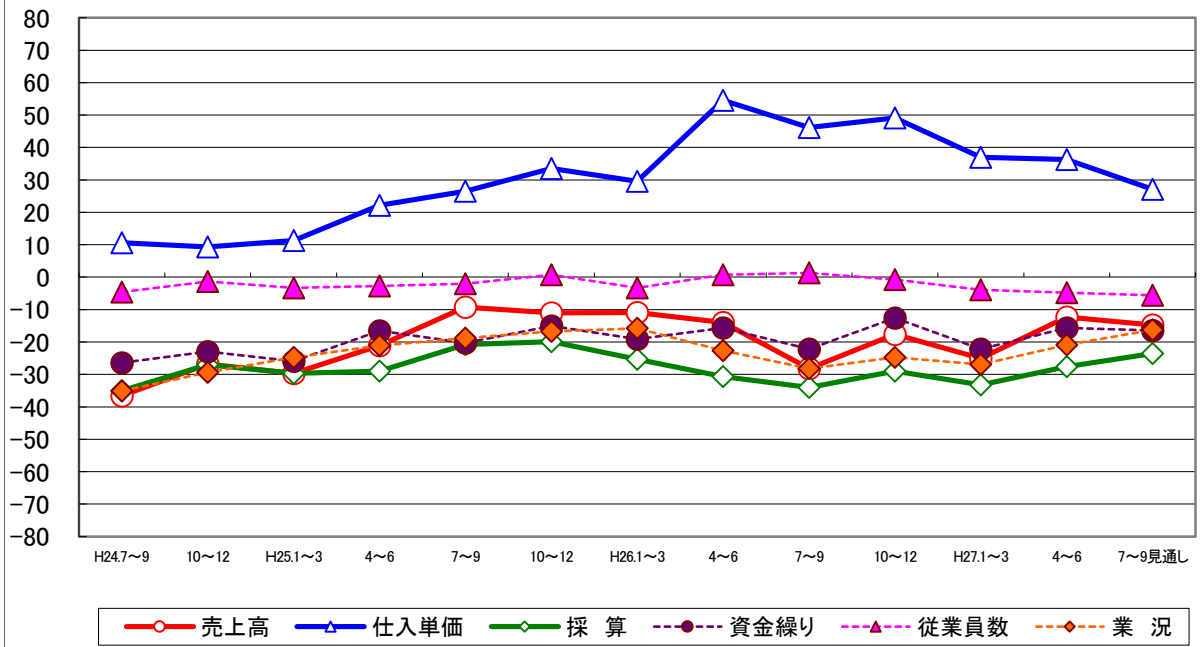
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

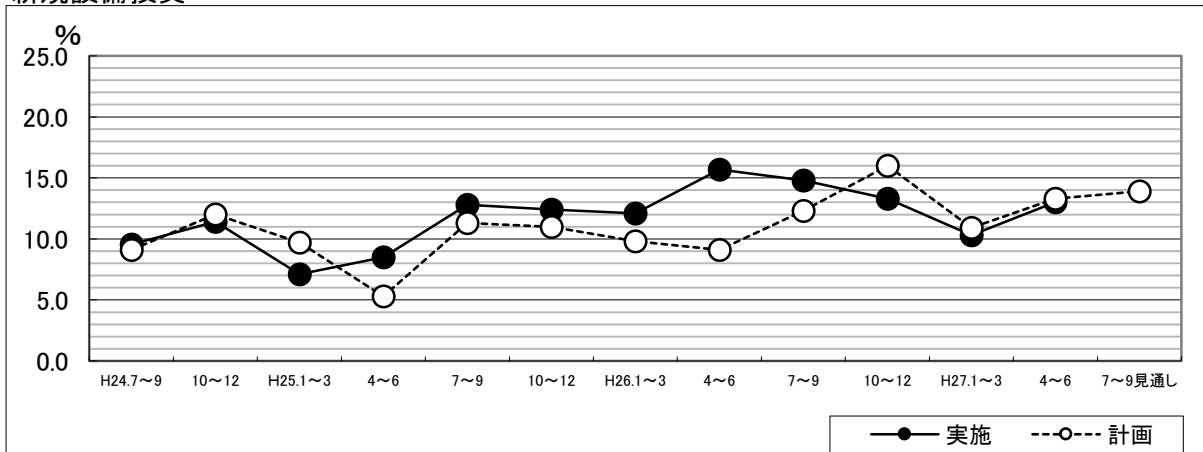
全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移 全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

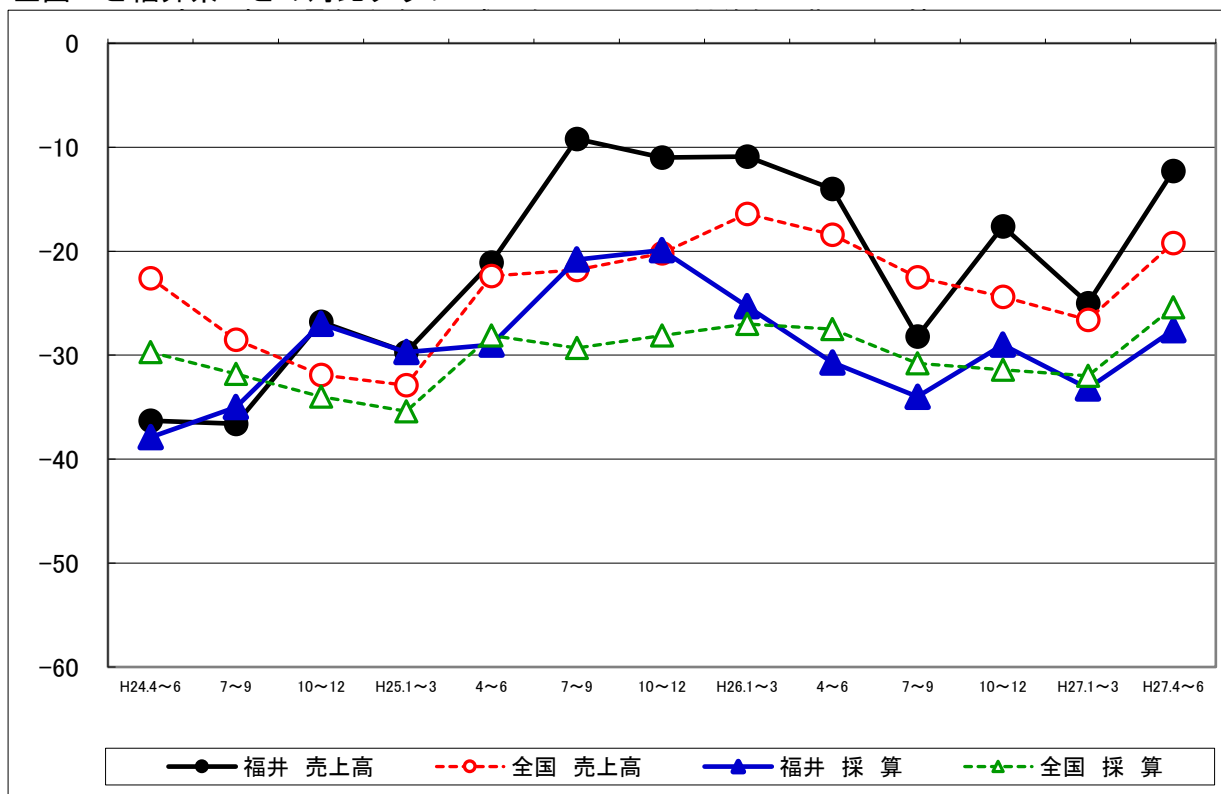
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10～12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1～3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4～6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7～9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10～12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1～3	▲ 10.9	29.6	▲ 25.3	▲ 19.1	▲ 3.3	▲ 15.8
4～6	▲ 14.0	54.6	▲ 30.7	▲ 15.7	0.7	▲ 22.7
7～9	▲ 28.2	46.2	▲ 34.0	▲ 22.2	1.3	▲ 28.2
10～12	▲ 17.6	49.1	▲ 29.0	▲ 12.6	▲ 0.7	▲ 24.7
H27.1～3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4～6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7～9見通し	▲ 14.8	27.1	▲ 23.6	▲ 16.4	▲ 5.6	▲ 16.2



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成27年4～6月期の福井県経済を概観すると、企業部門では収益改善やそれに伴う設備投資の増加がみられるほか、家計部門でも雇用・所得環境の改善が続くなかで、プレミアム商品券など各種政策効果も奏功し消費が堅調に推移している。今後も、北陸新幹線開業に伴う交流人口の増加といった波及効果も期待され、さらに景気回復への動きを強めていくものと思われる。特に、個人消費の面では、高額品などの堅調な動きや主要観光客数の来訪者増加など、底堅い動きが出始めている。

こうした中、今期（H27年4～6月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、深刻な人手不足を反映し従業員数でやや悪化（前期▲3.9→今期▲4.8）した以外は5項目で改善がみられた。ちなみに、従業員数以外の項目別動向をみると、売上高が前期▲25.0→今期▲12.3へ、仕入単価（逆指数）が前期37.0→今期36.3へ、採算が前期▲33.2→今期▲27.6へ、資金繰りが前期▲22.2→今期▲15.7へ、業況が前期▲26.9→今期▲20.9へと改善している。これらを総合すると、最近の県内中小企業を取り巻く景況感は、依然水面下ながら徐々にではあるが明るさが増しているといえよう。

また、来期（H27年7～9月期）の見通しについても、売上高、資金繰り、従業員数などの面でやや足踏み感もみられるが、仕入単価や採算などの改善により、業況はさらに上向くことが予想される。

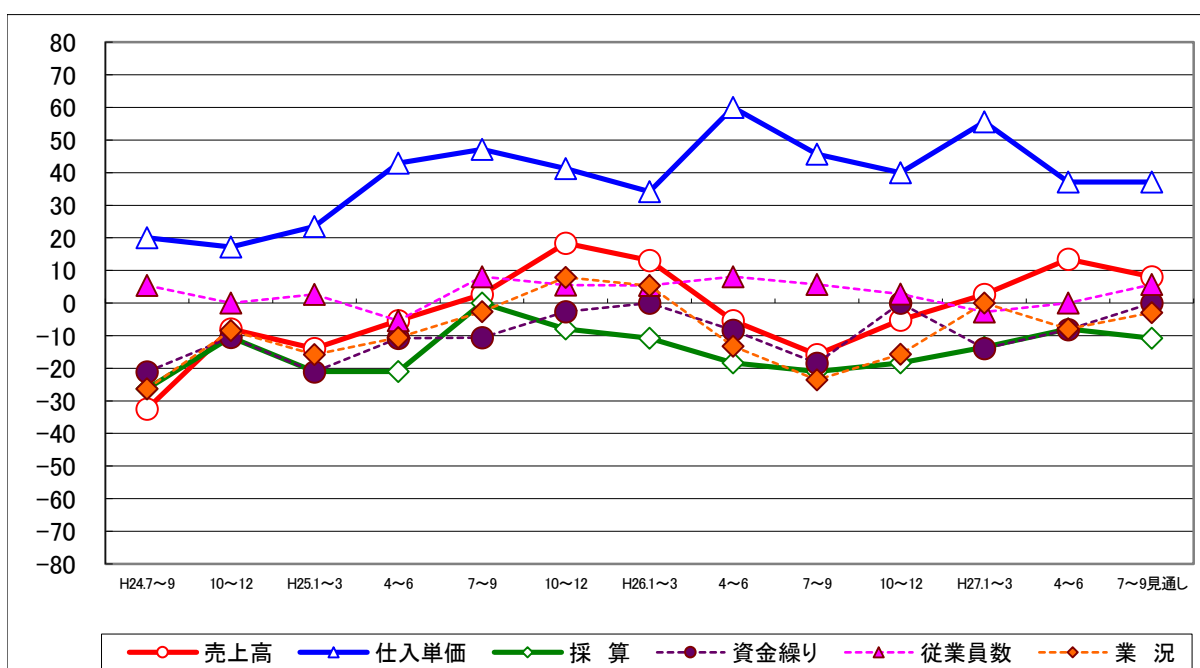
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、今期は全国、福井県ともに改善傾向にあり、特に福井県は売上高の改善が全国より強く表れている。

その他、今期の新規設備投資については、計画の13.3%に対して実施が13.0%とほぼ同水準となったほか、先行き（H27年7～9月期）についても、何らかの投資を計画している企業が13.9%とほぼ同程度の企業で投資計画が立てられている。

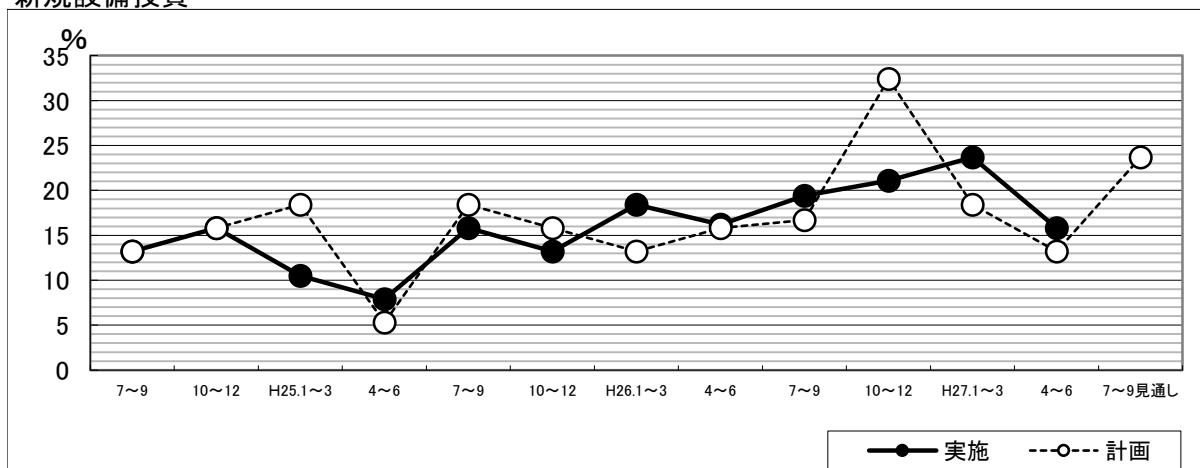
製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前 全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

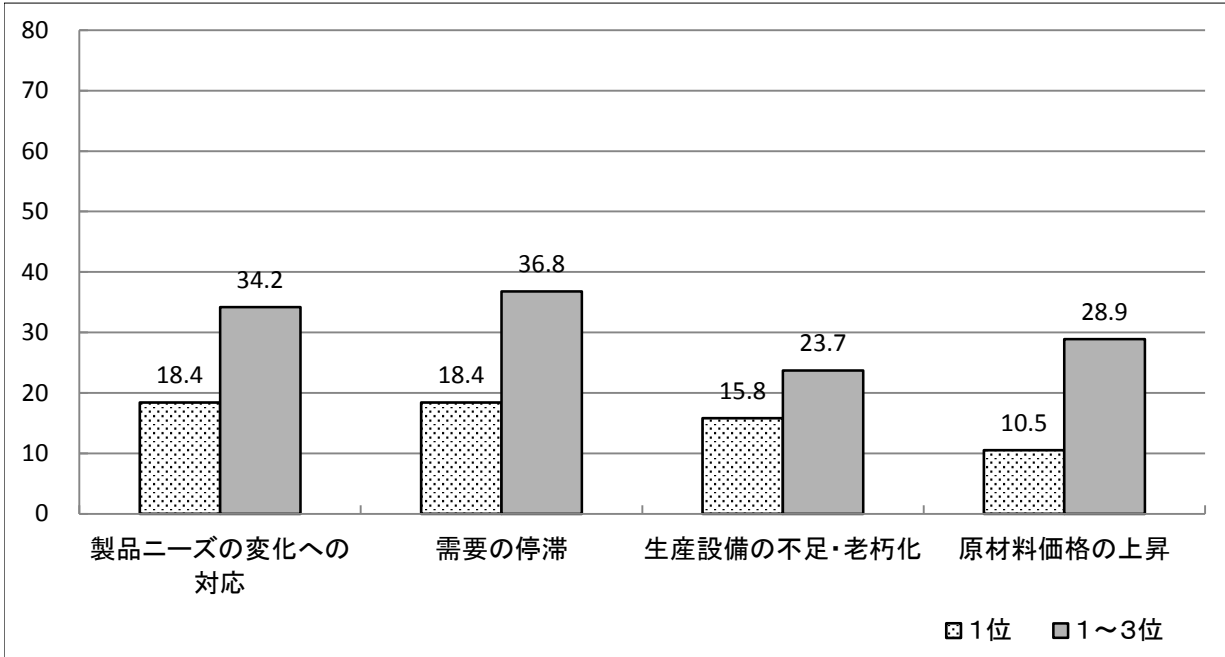
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10～12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1～3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4～6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7～9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10～12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1～3	13.1	34.2	▲ 10.8	0.0	5.4	5.3
4～6	▲ 5.4	60.0	▲ 18.4	▲ 8.3	8.1	▲ 13.2
7～9	▲ 15.8	45.7	▲ 21.0	▲ 18.5	5.7	▲ 23.6
10～12	▲ 5.2	40.0	▲ 18.4	0.0	2.8	▲ 15.7
H27.1～3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4～6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7～9見通し	8.1	37.1	▲ 10.8	0.0	5.7	▲ 2.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・原材料の大幅な価格上昇により、値上げを実施する予定であるが取引量は減少することが見込まれるため、大幅な値上げは困難である。
- ・加工賃は上がらないにもかかわらず、賃金、社会保険料といった人件費だけは毎年上がっており厳しい状況にある。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維や眼鏡枠といった地場産業では、高価格帯向けの商品や一部海外向けに動きがみられることから横ばいで推移。また、電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に、化学は合成樹脂や医薬品中心に生産が増加しているほか、輸送機械は自動車変速機部品が高水準で推移、プラスチック製品も建築資材やメディカル向けが順調に推移するなど、堅調な生産・出荷動向を維持しており、業種間、企業規模間格差はぬぐえないものの、全体としては持ち直し感を強めている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、業況が前期の0.0→今期▲7.9へと悪化した以外、その他5項目は改善傾向となった。ちなみに、項目別動向では、売上が前期2.7→今期13.5、仕入単価（逆指数）が前期55.6→今期37.1、採算が前期▲13.5→今期▲7.9、資金繰りが前期▲13.9→今期▲8.1、従業員数が前期▲2.7→今期0.0へと改善が進んだ。この結果から、県内製造業では業況にやや不安感を残してはいるものの、概ねどの項目も改善が進んだことや特に売上高は2期連続のプラスとなることなどから、総じてみれば景況感の改善傾向が強まっているといえよう。また、先行き（H27年7-9月期）についても、売上高、採算に足踏み感がみられるものの、引き続き改善傾向を維持するものと思われる。

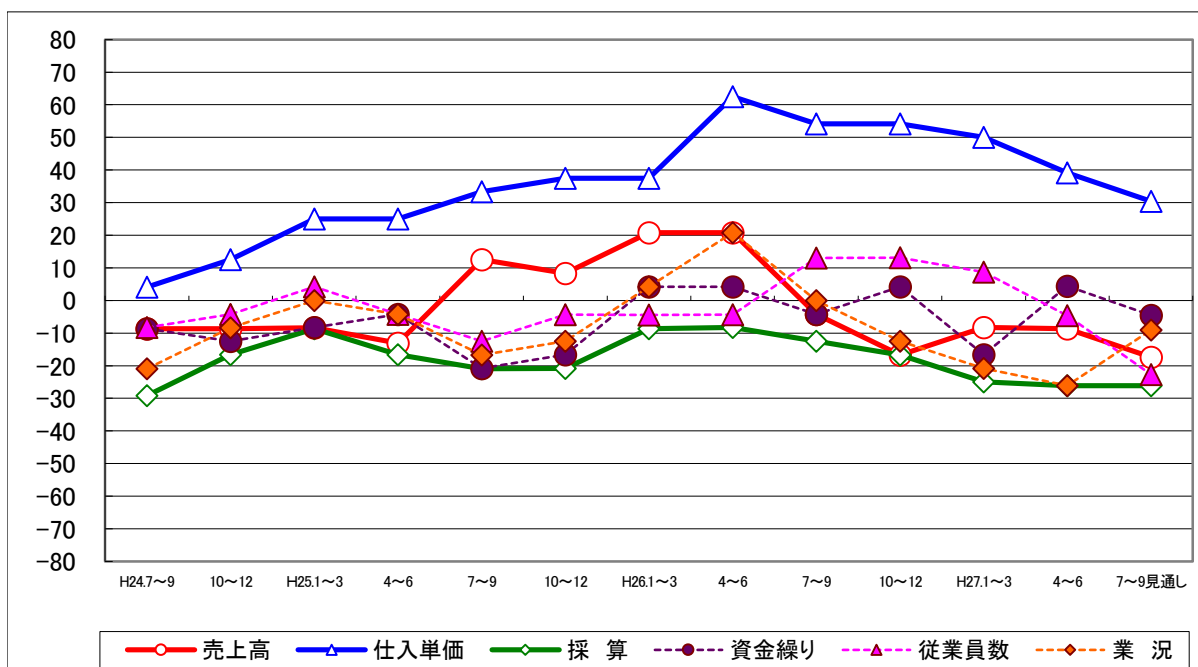
一方、新規設備投資の実施状況については、計画の13.2%に対し実施が6.1%と、実施が計画を下回ったものの、先行きについては、何らかの投資を予定する企業が23.7%と大幅増加しており、投資意欲は底堅いとみるべきであろう。

最後に、経営上の問題点については、「製品ニーズの変化への対応」（1位に挙げた企業18.4%、1位～3位までに挙げた企業34.2%）と「需要の停滞」（1位に挙げた企業18.4%、1位～3位までに挙げた企業36.8%）への指摘が比較的多くなっているほか、受注増によるランニングコストの増加といった指摘や円安による原材料値上げを経営課題として指摘する企業もみられる。

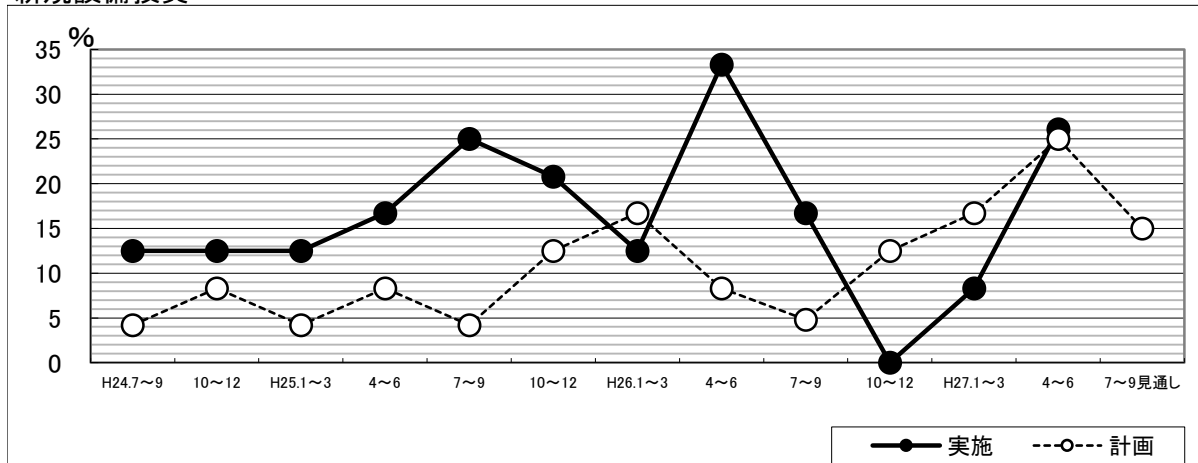
建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前 全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

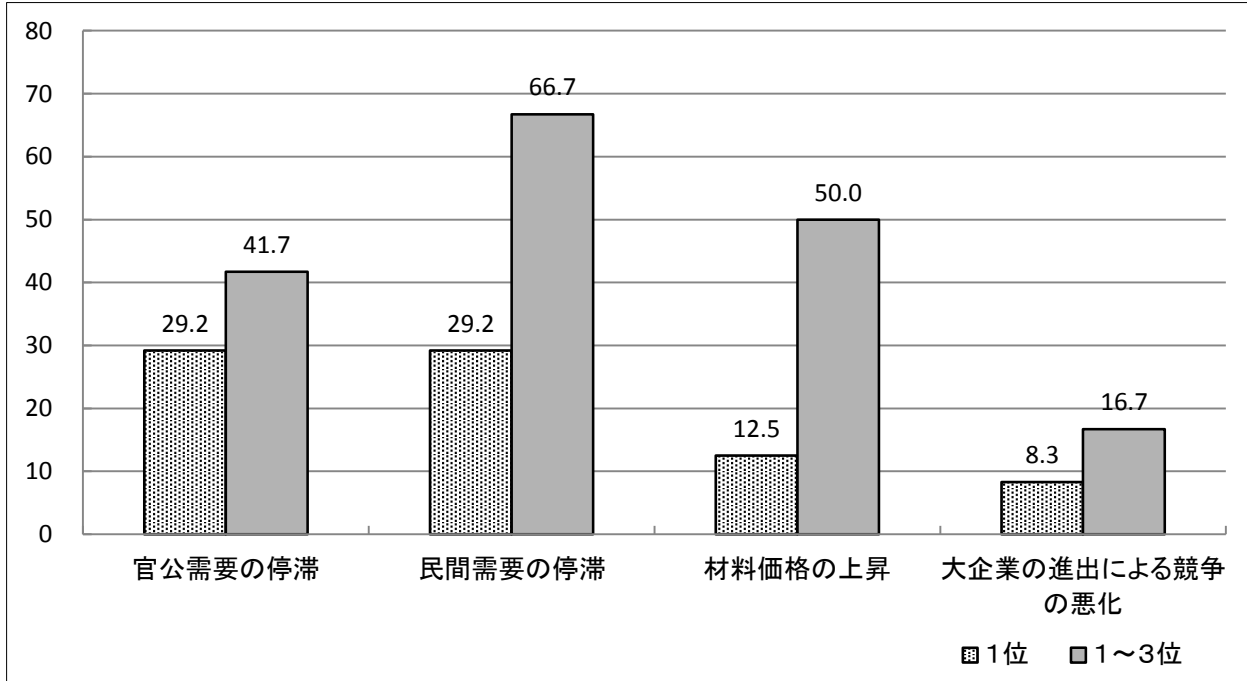
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10～12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1～3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4～6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7～9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10～12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1～3	20.8	37.5	▲ 8.7	4.2	▲ 4.4	4.2
4～6	20.8	62.5	▲ 8.3	4.2	▲ 4.3	20.8
7～9	▲ 4.2	54.2	▲ 12.5	▲ 4.2	13.0	0.0
10～12	▲ 16.7	54.2	▲ 16.7	4.2	13.1	▲ 12.5
H27.1～3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4～6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7～9見通し	▲ 17.4	30.4	▲ 26.1	▲ 4.5	▲ 22.7	▲ 9.1



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 公共工事は増加しているが、請負単価の上昇難、下請価格の上昇により利益の確保が難しい。
- ・ 短期的な引き合いはあるものの中長期的な見通しが立たない。

建設業の景況

福井県内における平成27年度（27年4月～27年6月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で380億9,800万円の前年同期比3.8%減、発注件数は同803件の同22.8%減となり、発注額、件数ともに前年度同期を下回っている。これを主な発注者別でみると、国家関連工事（84億1,700万円の同25.7%増）や市町村関連工事（133億500万円の同8.1%増）で増加したものの、県関連工事（85億5,300万円の前年同期比37.0%減）が大幅減少し、全体を引き下げていることがわかる。また、住宅投資については、平成27年4月～5月までの2か月累計で、前年同期比0.5%増の656戸と、前年並みの水準となった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比3.2%増の404戸、貸家が同18.6%増の172戸となっている。

こうした中で今回の景況調査では、仕入単価（逆指数）（前期50.0→今期39.1）と資金繰り（前期▲16.6→今期4.4）で改善がみられたものの、売上が前期▲8.3→今期▲8.7、採算が前期▲25.0→今期▲26.1、従業員数が前期8.7→今期▲4.6、業況が前期▲20.8→今期▲26.1へと悪化傾向を示した。また、先行き（H27年7～9月期）についても、仕入単価と業況で改善が進むものの、それ以外の3項目で悪化予測、1項目で横ばい予測となるなど、今しばらく一進一退の状況が続くものと思われる。

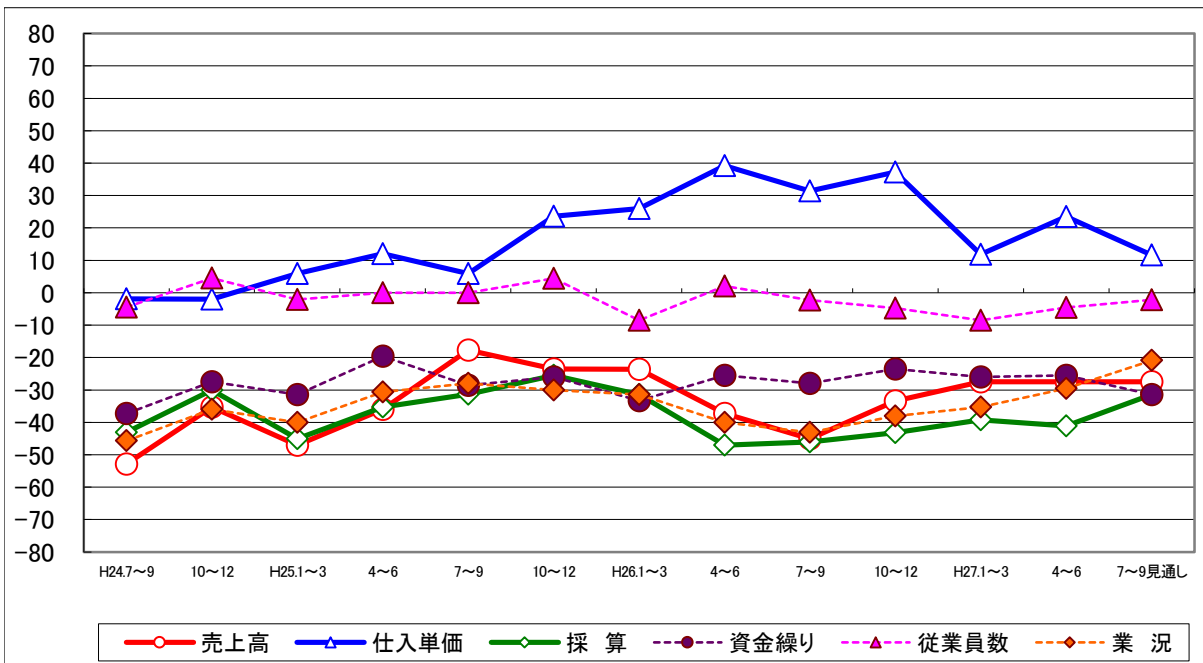
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画した企業25.0%に対し実施した企業が26.1%と順調に推移した。ただ、先行き（H27年7～9月期）については何らかの設備投資を計画している企業が15.0%にとどまり、やや低調な動きとなることがうかがえる。

最後に、経営上の問題点については、「民間需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト29.2%、1位～3位までに挙げた企業66.7%）、「官公需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト29.2%、1位～3位までに挙げた企業41.7%）を指摘する企業が比較的多く、需要の低迷が同業界の恒常的課題となっていることがうかがえる。その他、円安による原材料の高騰、価格競争の激化などを指摘する企業もみられた。

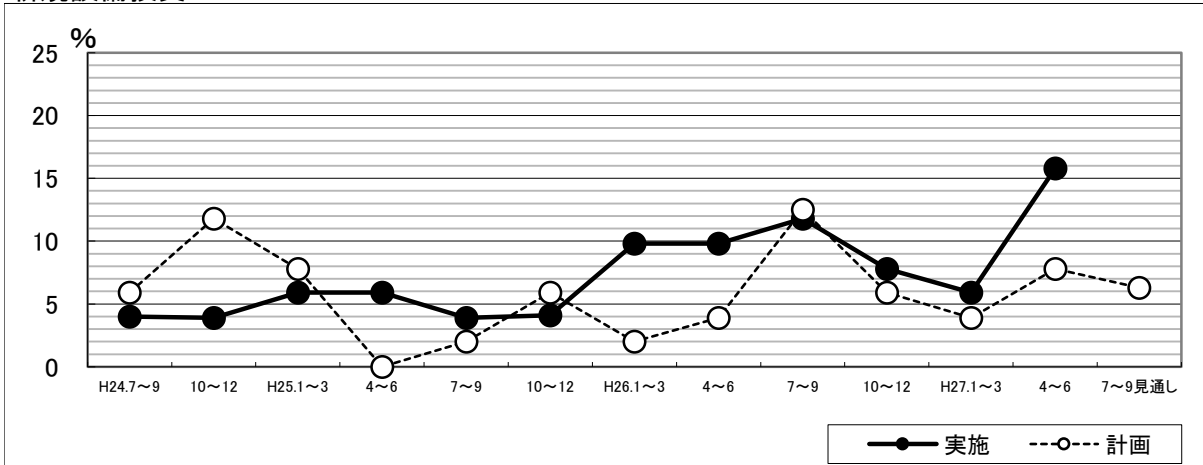
小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前 全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

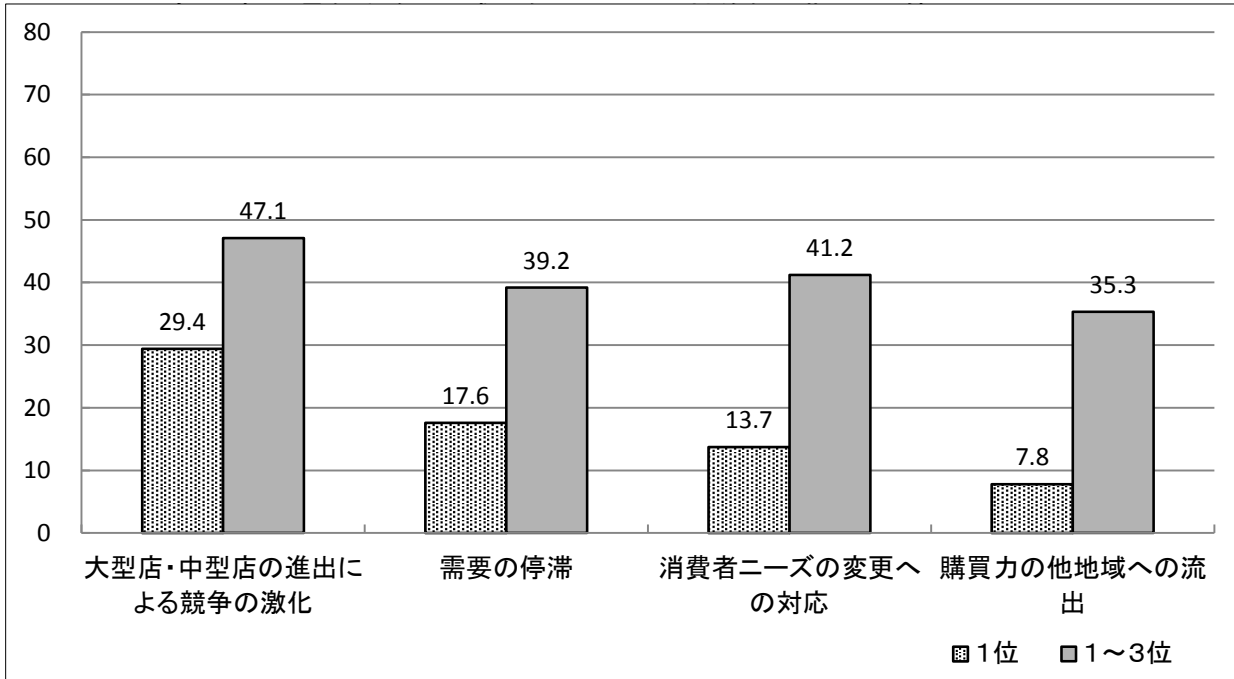
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10～12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1～3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4～6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7～9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10～12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1～3	▲ 23.6	26.0	▲ 31.4	▲ 33.3	▲ 8.5	▲ 31.4
4～6	▲ 37.3	39.2	▲ 47.0	▲ 25.5	2.1	▲ 40.0
7～9	▲ 45.1	31.4	▲ 46.0	▲ 28.0	▲ 2.3	▲ 43.1
10～12	▲ 33.4	37.2	▲ 43.2	▲ 23.5	▲ 4.7	▲ 38.0
H27.1～3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4～6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7～9見通し	▲ 27.5	11.7	▲ 31.4	▲ 31.4	▲ 2.2	▲ 20.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 需要の停滞を感じている。好況感是我々の所までには届いていないように感じる。プレミアム商品券やその他の施策に活路を見出したい。
- ・ 中心街の大型店との価格競争にさらされており、今後売上が減少することを危惧している。

小売業の景況

近畿経済産業局が毎月公表する大型小売店販売状況（百貨店＋スーパー）から5月の結果をみると、飲食料品の動きが良く高額品等も好調に推移したことなどから、全店ベースで前年同月比8.7%増の62億6,900万円となり、今年入り後は3月（消費税増税前の駆け込み需要が発生した月との比較による）を除き概ね前年同月の実績を上回っている。業態別では、コンビニエンスストア販売が、カウンターフーズ等に動きがみられ順調に推移、ドラッグストアも品揃えの拡充により飲食料品に動きがみられたことなどから順調な動きとなったほか、家電量販店もパソコン等の動きは鈍いものの全体として持ち直している。また、ホームセンターもエクステリア商品等の動きが鈍いものの、飲食料品等を中心に底堅い動きとなっている。

こうした中、今回の景況調査では、6項目中3項目が改善、1項目が横ばい、残り2項目で悪化傾向を示すなど、項目によりかなりのバラツキが目立った。ちなみに、資金繰りが前期▲26.0→今期▲25.5、従業員数が前期▲8.5→今期▲4.6、業況が前期▲35.3→今期▲29.5で改善。売上高が前期▲27.5→今期▲27.5で横ばい。仕入単価（逆指数）が前期11.8→今期23.5、採算が前期▲39.2→今期▲41.1と悪化している。また、今後の見通し（H27年7-9月期）については、資金繰りを除き4項目で改善、1項目が横ばいを示しており、やや上向くものと思われる。

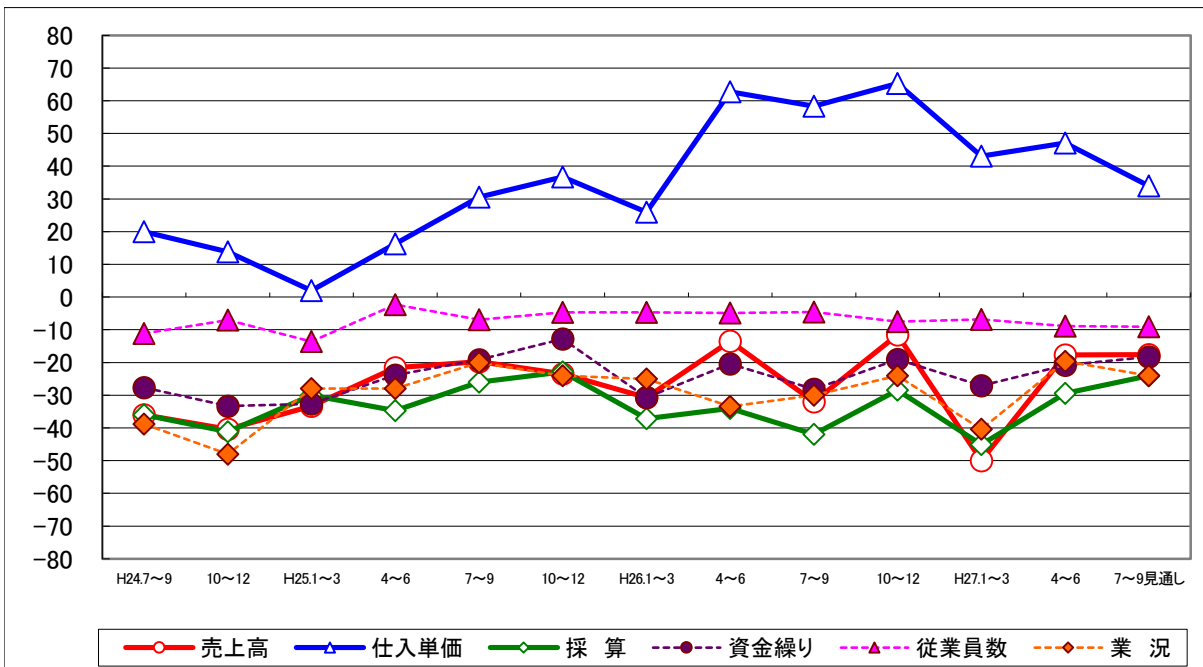
一方、新規設備投資の実施状況については、今期、計画の7.8%に対し実施が15.8%となり倍増している。また、先行き（H27年7-9月期）については、6.3%の計画にとどまっております。同業界における投資意欲の回復感は遠い。

最後に、経営上の問題点については、「大型店・中型店の進出による競争激化」（1位に挙げた企業ウエイト29.4%、1位～3位までに挙げた企業47.1%）や「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト17.6%、1位～3位までに挙げた企業39.2%）を指摘する企業が多い。その他、「消費ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」への指摘も比較的多く、多様な課題が同業界に内在していることがわかる。

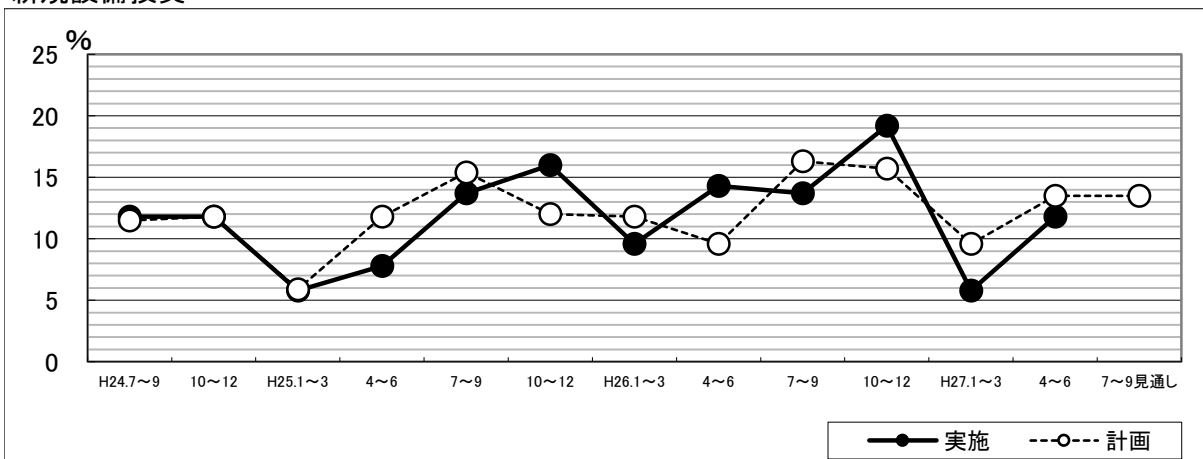
サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向（前 全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

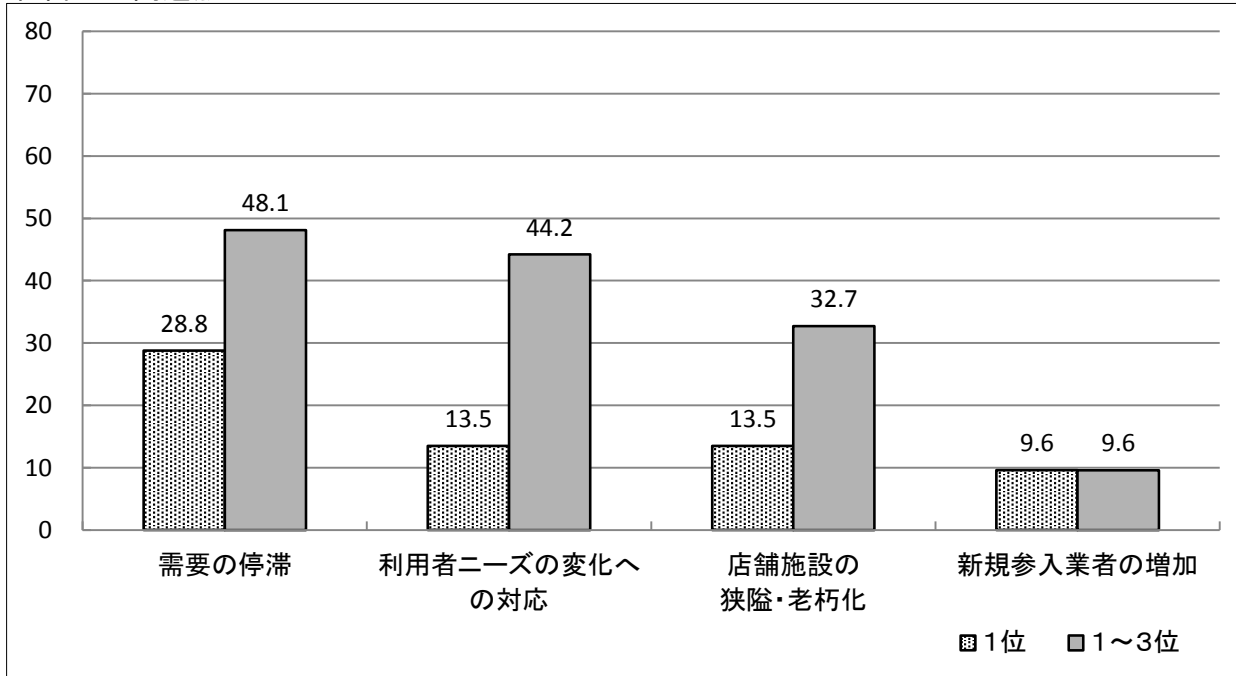
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H24.7～9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10～12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1～3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4～6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7～9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10～12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1～3	▲ 30.7	26.0	▲ 37.2	▲ 30.7	▲ 4.7	▲ 25.0
4～6	▲ 13.5	62.7	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 4.9	▲ 33.4
7～9	▲ 32.0	58.3	▲ 42.0	▲ 28.2	▲ 4.6	▲ 30.0
10～12	▲ 11.5	65.3	▲ 28.5	▲ 19.1	▲ 7.5	▲ 24.0
H27.1～3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4～6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7～9見通し	▲ 17.6	34.0	▲ 24.0	▲ 18.3	▲ 9.1	▲ 24.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・前期、前年同期と比べても厳しい状態にある。景気が上昇に転じている報道を聞いても、サービス業では無縁だと感じている。
- ・北陸新幹線金沢開業に伴い、より多くのお客様に来ていただけることを期待している。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する・平成27年5月の第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）は98.6で前月比0.7%の低下となり、3か月連続で前月を下回っている。これを業種別にみると、学術研究、専門・技術サービス業、卸売業、小売業、情報通信業、医療、福祉、運輸業、郵便業、不動産業、物品賃貸業、電気・ガス・熱供給・水道業が低下。その他サービス業（公務等を除く）、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、金融業、保険業、複合サービス事業、学習支援業が上昇している。

ちなみに、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）、従業員数の2項目を除く4項目で改善傾向を示した。項目別では、売上高が前期▲50.0→今期▲17.7、仕入単価（逆指数）が前期43.1→今期47.1、採算が前期▲45.1→今期▲29.4、資金繰りが前期▲27.1→今期▲20.8、従業員数が前期▲6.8→今期▲8.9、業況が前期▲40.4→今期▲19.6となっている。これらの結果から、同業界では仕入単価の上昇、恒常的な人手不足といった問題を抱えながらも、地道な経営努力により何とか頑張る企業の姿が浮かび上がる。また、先行き（H27年7-9月期）については、従業員数、業況で悪化予測となっているものの、売上高、仕入単価、採算、資金繰りで改善予測を示している。

一方、新規設備投資については、計画13.5%に対し実施が11.8%とまずまずの動きとなったほか、先行き（H27年7-9月期）についても13.5%の企業で何らかの設備投資を計画しているなど、今後も横ばいで推移することが期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト28.8%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト48.1%と高水準を示した。そのほか「利用者ニーズの変化」への指摘も比較的多く、1位に指摘した企業ウエイト13.5%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト44.2%となっている。

全国・福井景気動向 平成27年4月～6月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 19.2	41.4	▲ 25.4	▲ 14.9	▲ 3.5	▲ 20.9
	製造業						
	DI値	▲ 9.3	47.0	▲ 19.6	▲ 11.3	0.6	▲ 12.8
	建設業						
	DI値	▲ 19.0	51.1	▲ 20.2	▲ 9.1	▲ 3.8	▲ 12.8
	小売業						
	DI値	▲ 30.6	30.0	▲ 34.2	▲ 22.3	▲ 4.4	▲ 33.0
	サービス業						
DI値	▲ 18.0	43.1	▲ 24.2	▲ 13.8	▲ 5.3	▲ 19.6	
福井	全体						
	DI値	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
	製造業						
	DI値	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
	建設業						
	DI値	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
	小売業						
	DI値	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
	サービス業						
DI値	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

